

妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状と課題

中 島 久美子 常 盤 洋 子

(2008年9月30日受付, 2008年12月8日受理)

要旨: 【目的】文献検討により妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係を定義し, 妊娠期の妻の精神的健康を促す夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状と課題を明確にすることを目的とする。【研究方法】1988年~2008年までの論文を対象に pregnancy, transition to parenthood, couple, marital relationship, support, をキーワードにして, 医学中央雑誌, MedLine を中心に検索した。【結果】97件が検出され, 妻への夫の関わりと夫婦関係に関する記述がなされ, 学術論文の形式が整っている22論文を選んで概観した。妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係が定義され, 夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状および研究の課題が見出された。【結論】妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係が定義された。また, 今後の研究の課題として, 以下2つの点が明らかにされた。①夫婦を対象とした, 妊娠期の妻への夫の関わりおよび夫の親性の発達に影響を及ぼす夫婦関係に関する研究の必要性, ②妻の精神的健康をアセスメントするための夫の関わりと夫婦関係について測定可能な尺度開発の必要性が示唆された。

キーワード: 妊娠期, 夫の関わり, 夫婦関係, 文献レビュー

1. はじめに

近年の都市化, 核家族化や少子化, 情報化などの社会的環境の変化により, 主たる養育者である母親は, 孤立した状況に陥りやすい。そのため, 妊娠・出産・育児は女性一人が担うものではなく, 妊娠期から夫の関わりが重要視されるようになった^{1・2)}。また, 妊娠期の女性は, 身体の急激な内分泌系の変動を受容し, 心理・社会的には, 母親になり子どもを受容するための準備と役割を担う。このような妊娠期の変化に適応しながら新たな課題を達成するためにも, 妊娠期は妻の精神的健康を促す夫の関わりが期待される。

妊娠期は親への移行期の始まりの時期であり, この移行期とは, 第1子の誕生により夫婦が新婚期から養育期へライフサイクル上で推移する時期, つまり妊娠期から第1子が1歳半から3歳くらいまでの期間とみなされている³⁾。親への移行期における夫婦関係の特徴として, 子どもを持つことにより夫婦関係が悪化し, 夫婦の親密さが低下するという報告がある⁴⁾。また, この移行期において夫婦が抱える課題は, 養育以外にも幼い子どもがいることに付随して増大する家事を効率的に遂行すること, 夫婦の心理的な交流を通して夫

婦の絆を深め育てていくことである⁵⁾。そのため移行期は, 夫婦で育児をする上で悩み・心配事を共に考え, 相談し合える関係性が不可欠である。妻の精神的健康に影響する夫の関わりについて, 伊藤ら⁶⁾は, 夫婦関係を男女の比較で分析し, 妻は, 夫が情緒的サポートの対象となりうるか否かよりも, 夫と現実には十分コミュニケーションがとれていると認識するか否かが重要だと指摘している。

これらの知見から, 妊娠期の妻が, 夫婦間のコミュニケーションがとれていると認識すること, また夫との感情の共有や役割調整の話し合いがもたれていると認識することは妻の精神的健康を促す上で重要と考えられる。

また, 妊娠期の親役割獲得に関する看護研究においても, 夫婦関係について言及されている。大月ら⁷⁾は, 妊娠期の母親役割獲得を促す家族看護の構成概念について検討し, 日本における妊娠期の母親役割獲得を促す看護として, 【家族成員間の関係性に働きかける援助】を見出した。岩田ら⁸⁾は, 妊娠期の父親役割への適応を促す援助について分析し, 父親単独を対象とした援助に対して夫婦を対象とした援助があり,

その中で夫婦間コミュニケーションの促進、役割調整のための夫婦間の話し合いを促進する援助の必要性を見出した。このように、母親または父親の役割獲得や適応を促すためには、母親になる妻、父親になる夫、どちらか一方に働きかけるだけでなく、夫婦関係に働きかける援助が求められているといえよう。

以上より、妊娠期において妻が精神的に健康に過ごし、出産・育児に向けて心身の準備を整えるためにも、妻を支える夫の関わりが重要であり、妻の精神的健康を促す夫の関わりと夫婦関係との関連性を検討する必要があると考えられる。これまでの妊娠期の妻への夫の支援に関する研究では、母親または父親という対象の理解や、親役割獲得に関する影響因子を明らかにする研究が中心であった。夫婦あるいは家族システムとしての育児の必要性が示されてきているが、妊娠期から夫婦で担う育児の現状と課題を妻への夫の関わりと夫婦関係から系統的に検討した報告はこれまで見当たらない。

そこで本研究では、夫婦を対象にした論文を分析し、夫の関わりと夫婦関係を定義し、妊娠期の妻の精神的健康を促す夫の関わりと夫婦関係についての研究の現状と課題を明確にすることを目的とした。

II. 方法

本研究では、当初、妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の動向を整理するため、妊娠期の夫婦を対象とした研究論文を概観しようと試みた。しかし、妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究を分析する際に、育児期に比べて妊娠期の夫婦に焦点を当てた研究論文の数は少ない事が判明した。また、対象を「親への移行期」つまり、妊娠・出産・育児という一連の経過で捉える見方が一般的であると考えられた。そこで、妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究を幅広く捉えるために、親への移行期まで対象を広げて研究論文を分析することにした。文献検索は、妊娠期、移行期、夫、親、夫婦、夫婦関係、支援、サポート、pregnancy, transition to parenthood, couple, marital relationship, support, をキーワードにして、医学中央雑誌、MedLineを中心に検索した。

III. 結果

1. 文献の概要

文献検討の結果、1988年～2008年までの論文97件が検出された。その中から、夫の関わりと夫婦関係に関する記述がなされ学术论文の形式が整っている22論文を選んで概観した。抽出した22論文は、内容別に「妻への夫の関わりおよび夫婦関係の定義が記述されている論文」、「妻への夫の関わりと夫婦関係との関連に関する論文」、「親性の発達および親性の発達に影響を及ぼす夫婦関係に関する論文」、「妻への夫の関わりおよび夫婦関係の測定尺度に関する論文」に分類できた(表1)。

2. 妊娠期における妻への夫の関わりと夫婦関係の定義

1) 妊娠期における妻への夫の関わりとの定義

妊娠期は、親への移行期の中でも親になるための準備期と位置づけられ重要な時期である。近年の少子化や核家族の進行により、妊婦のソーシャル・サポートは縮小し、特に初産婦では、これから母親になって育児をしていく自分を具体的にイメージできない、相談できる人が少ない状況から、最も身近に働きかける夫の重要性が指摘されている⁹⁾。

笠井ら¹⁰⁾は、夫の育児サポートについて、母親が行う育児、家事行動を夫が担うという単なる代行だけではなく、母親が夫は子育てに責任を持っていると感じることが大切であり、母親が一人で育児を抱え込むことがないような心理面での負担の軽減が含まなければならないと指摘した。これにより夫の育児サポートを「夫婦で一緒に育児を行っている母親が感じることができる夫による援助活動」と定義している。中山ら¹¹⁾は、父親の「直接育児行動」「情緒支援行動」が母親の育児支援と関連するとして、妻への夫の関わりについて、幅広い視点から妻への情緒支援を捉えることで妻の気持ちが安定して育児を行っていくことができると捉えている。藤原ら¹²⁾は、妻への夫の関わりについて、育児期の父親の育児家事行動に対する母親の受け止めや満足感は、父親の行動の多さよりも父親に対して母親がどのような期待をもっているかと関

表1 概観した論文の概要

論文の内容	論文数 (件)
妻への夫の関わりおよび夫婦関係の定義が記述されている論文	7
妻への夫の関わりと夫婦関係との関連に関する論文	5
親性の発達および親性の発達に影響を及ぼす夫婦関係に関する論文	12
妻への夫の関わりおよび夫婦関係の測定尺度に関する論文	12

注) 論文数は内容に応じて重複している

連があると捉えている。このように妻への夫の関わりは、育児、家事といった直接的援助だけではなく、母親が一人で育児を抱え込まないように、夫婦で一緒に育児を行っていることを母親自身が認識できる夫の精神的援助が重要であると示されている。

中島¹³⁾は、妊娠期の妻への質的調査により、妊娠各期において妊婦が満足と認識する夫の言動と態度について、5つのカテゴリー「情動への気づかい」、「仕事上の変更への理解と母親意識への評価」、「父親としての自覚と子どもへの愛着」、「出産・育児に関する夫婦の話し合い」、「直接的支援」を抽出した。それにより、妊娠期の妻への夫の関わりとは、妻の情動への気づかいや家事労働の援助、胎児に感心を持つことや、夫婦で一緒に出産・育児を話し合うという多次元の要素を含むことが示唆された。

以上の文献検討より、本研究では、妊娠期の妻への夫の関わりを、「これから夫婦で一緒に育児を行っていけると感じるができる夫の行為。妻への情緒的安定を促す精神的援助、家事労働を助ける実際の援助の他、胎児への関心、夫婦の協働による子どもを迎える準備を含む」と定義した。

2) 妊娠期における夫婦関係の定義

神原¹⁴⁾は、我が国における夫婦関係に焦点を当てた実証研究の蓄積が乏しいことから、米国における実証研究を中心に、夫婦関係満足度をめぐる諸要因に関するレビューを行った。その結果、夫婦関係の概念をどのように定義するのかという点について、米国の研究者間でも一致をみておらず混乱があると指摘した。そして、夫、妻という個人を分析単位として、個人にとっての夫婦関係の意味を明らかにするのか、あるいは、夫婦関係を分析単位として、夫婦間の適合性、凝集性、安定性といった関係特性を明らかにするのかという研究目的を明確にした上で、有効な概念を定義する必要があると述べた。夫婦関係とは、澤田¹⁵⁾によると、自分たち夫婦の関係をお互いがどのように認識しているかという夫婦関係の質についての関係性である。このような夫婦関係の質 (marital quality) は、社会学、心理学研究においては、調和性、満足度、パートナーとの愛情関係、コミュニケーションなどの側面から検討されている。

我が国では、夫婦関係 (親) が子どもに与える影響に関する研究に集中しており、1990年代に入り、ようやく心理学の分野において、夫婦関係そのものに焦点を当てた研究が行われるが³⁾、看護学の分野においては、夫婦の関係性に関連した研究は少ない。夫婦関係の満足度に関する研究では、夫婦の親密性を高めるこ

との意義を述べた小野寺¹⁶⁾の研究、また、米国の夫婦に比べて日本の夫婦は、精神的側面に焦点を当てることの必要性を述べた堀口¹⁷⁾の研究がある。佐々木¹⁸⁾は、妊娠期のペアレンティング (親としての発達) の規定因子として夫婦関係が影響していることを想定し、Belsky¹⁹⁾のプロセスモデルを参考に、妊娠期の夫婦関係を評価指標として夫婦間コミュニケーションをあげた。また、笠井ら¹⁰⁾は、1994年から2003年の文献研究から、育児期間中の夫婦は多くの場合、子どもを育て上げるという共同目標をもち、夫婦間では、意見が一致するか否かよりも納得するまで話し合う事や、お互いの声かけや会話などのコミュニケーションを通して理解し合うことが大切であると指摘した。そして育児期の夫婦関係を「相互理解と信頼に支えられ一体感、共同目標をもつ夫と妻の関係」と定義した。

このように、親への移行期における夫婦関係は、互いの親密性を高めることが良い夫婦関係とされる。妊娠期の夫婦関係においても、夫婦間の共感的なコミュニケーションにより、出産・育児への準備が図られることが理想的な夫婦関係であると示唆された。

以上の文献検討より、本研究では、妊娠期の夫婦関係を「夫婦で子どもを迎えるという共同目標を持ち、夫婦間の共感的なコミュニケーションの基で精神的な安定が図られ、相互の親密性と連帯性を強めていく関係性」と定義した。

3. 妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状

1) 妻への夫の関わりと夫婦関係との関連

夫婦間コミュニケーションの視点から育児不安を検討した石ら²⁰⁾の研究では、従来の日本文化の「遠慮」と「察し」による夫婦のコミュニケーション観に反し、自分の意図や考えを正確に相手に伝える「記号化」というスキルが夫婦間のスムーズなコミュニケーションを促進し、それにより夫からのサポートが促され、母親の育児不安の軽減に繋がることを示された。また、笠井ら²¹⁾は、196名の乳幼児を持つ母親を対象に、夫の育児サポートと夫婦関係の因子分析を行った結果、「夫の育児サポート」、「夫婦関係」はどちらも1因子構造からなり、それぞれ「共同感」、「親近感」と命名した。この夫の育児サポートは、行動面のサポートにおいて母親の身体的負担が軽減されると同時に母親の心理面での負担も軽減され、なおかつ夫と共同で育児に取り組んでいると感じられ、行動面と心理面を明確に分けることの難しさが指摘された。また、夫婦関係においては、夫婦で共に育児に取り組むため心理面での結束が重要であるとともに、お互いの気持ちを表現

し相手に伝えていくためには、会話や声かけなど行動面での関係も必要であるため、心理面と行動面が重なる単純構造としたことが示された。そして、夫の育児サポートと夫婦関係の因子得点の相関分析を行った結果、強い正の相関が認められた ($r=0.759, p<0.01$)。

橘ら²²⁾は、日隈ら(1999)の育児家事行動尺度と諸井(1988)の夫婦関係満足尺度を用いて、夫の育児家事行動の特徴と子どもへの愛着、夫婦関係満足度との関連を妻との比較で分析した。その結果、夫は妻に比べて育児家事行動得点は低いが、子どもへの愛着や夫婦関係満足度の得点には夫婦間の差がないということ、また、夫の育児家事行動と愛着、夫婦関係との相関関係が明らかにされた。よって、妻にとって育児家事行動は、子どもへの愛着や夫婦関係に左右されるものではなく、女性の役割であるという伝統的性役割規範に影響されるが、夫では、夫の育児家事行動、子どもへの愛着、夫婦関係は交互に高め合う関係にあることが示唆された。

以上の文献検討から、妻への夫の関わりと夫婦関係とは交互に高め合う関係性にあり、夫婦関係の良さが妻への夫の関わりを促進するという関係性が示唆された。

2) 夫の親性の発達に影響を及ぼす夫婦関係の検討

日隈ら²³⁾は、親としての役割意識を持ち、育児家事行動量が多いことが父親の発達に影響していることから、父親自身の側から発達論的にも捉える必要があることを示唆した。また、夫が育児をすることにより子どもの社会性などの発達に影響を与え¹¹⁾、妻の満足度を高めたり育児不安を軽減させたりすることを明らかにした²⁴⁾。このような育児を通した親の人格発達について、近年では、育児期のみならず、妊娠期における親意識の形成過程についても検討されている²⁵⁾。また、妊娠期における親としての発達に関する研究は、親意識・親行動の変化²⁶⁾、親としての人格的発達²⁷⁾、親としての特性²⁸⁾、親役割への適応²⁹⁾など、いくつかの側面から検討されている。さらに、妊娠期の親性の発達に影響する要因に関する研究も数多く、夫婦の関係性、胎児との関係性、パーソナリティ特性、性役割への認識、親意識などの視点が挙げられる^{15・18・27・28・29・30)}。中でも、子どもをもつことにとまなう親としての発達に影響を及ぼす要因として、夫婦関係が重要である。

Belsky¹⁹⁾は、養育期のペアレンティング(親になること)について、その規定因を親性の要因(親自身の生育歴、パーソナリティ)、社会的要因(夫婦関係、仕事、社会的ネットワーク)、子どもの特徴の3要因

としている。佐々木¹⁸⁾は、妊娠期から親としての発達は開始していると考え、妊娠期のペアレンティングとして妊娠期の妻とその夫の親になる意識、およびペアレンティングの規定因である社会的要因としての夫婦関係に着目した。その結果、妻では良好な夫婦関係が親となる意識の否定的側面を緩和し、夫婦に共通して、成熟したパーソナリティーは夫婦関係及び胎児との関係に好影響を及ぼし、親となる意識に肯定的に寄与していたことを明らかにした。また、古田ら²⁸⁾は、妻の妊娠中に夫の親性を発達させる要因に夫婦関係が関与していることから、夫婦関係の一要因であるコミュニケーション、特に妊娠中の妻の夫に対する言語的働きかけに着目し、夫の親性との関係を明らかにした。

一方、神崎²⁹⁾は、夫の親役割への適応は、自立的に親としての態度・行動をとれるように発達的に変化する過程であり、この発達的な変化の様相は、親としての自己概念の様相により異なる指摘した。この親としての自己概念は、重要な他者である妻との関係性や子どもへの感情によって影響を受け、さらにこれらの認識は、個別的な自我の機能的特性に影響を受けると指摘した。そして、親としての態度・行動変化への各要因への因果的関連を検討した結果、親としての直接的態度・行動は、親意識よりも思いやりや共感といった養護的な特性や妻から評価してもらいたいという関係欲求が影響し、変化することが明らかとなった。この結果から、妊娠期において夫の親性の発達には妻から肯定的に評価されたいという妻との関係性、すなわち夫婦関係が影響を及ぼすことが分かった。

以上の研究結果より、妊娠期において夫の親性の発達には夫婦関係が影響を及ぼすことが示された。

4. 妊娠期における妻への夫の関わりと夫婦関係を測定する尺度の検討

これまでに述べた妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状から、妻への夫の関わりと夫婦関係とは交互に高め合う関係性にあり、夫婦関係の良さが夫の関わりを促進するという関係性が示された。また、妊娠期において夫の親性の発達には夫婦関係が影響を及ぼすという関係性が示された。このことから、妊娠期における良好な夫婦関係は、夫の親性の発達および妻への夫の関わりを促進すると推測され、妊娠期における妻の精神的健康を高める夫の関わりと夫婦関係を把握することの必要性が示唆された。そこで、夫の関わりと夫婦関係を測定する尺度について検討した。

1) 妻への夫の関わりを測定する尺度の検討

妊娠期における妻への夫の関わりを測定する尺度に関する研究として、妊婦のソーシャル・サポートの測定に関する研究では、岩田ら³¹⁾が、Brown (1986)の妊婦用に開発した Support Behaviors Inventory (SBI) を日本語版に改変し、妊婦の不安やストレスとソーシャル・サポートとの関連を検討した。また、喜多ら³²⁾は、Cronenwett (1985)の妊婦を対象とした Social Network Inventory (SNI) を改変し、妊婦のソーシャル・サポートの質と量を検討した。これらの尺度は、「情緒的」、「評価的」、「情動的」、「物質的」の4つの下位尺度から構成されていた。また、妊婦への支援提供者は、夫や家族、友人など幅広い人々を含んでおり、夫に焦点を当てて作成された尺度ではなかった。

一方、親への移行期である育児期における妻への夫の関わりを測定する尺度の研究には、育児期の母親に対する夫の育児協力、家事協力で、妻の精神的援助を加えた視点から夫の関わりを測定する方法が採られてきた。日隈ら²³⁾は、夫の発達を育児、家事を通した親としての発達ととらえ、「子の相手行動」、「子の世話行動」、「家事行動」、「母親への精神的援助行動」の4つからなる育児家事行動尺度を作成した。また、笠井ら²¹⁾は、前述したように夫の育児サポートを定義した上で、「家事」、「育児」、「傾聴」、「共同」、「関心」、「愛情」の6つの概念からなる夫の育児サポートを示した。石ら²⁰⁾は、乳幼児を持つ母親を対象に実証的研究を行い、育児不安の軽減効果を持つ夫からのサポートは3つの次元からなり、軽減効果が大きい順に、「情緒的サポート」、「家族への関わり」、「妻への援助」であることを明らかにした。

以上から、妻への夫の関わりを測定する尺度の構成概念について、妊娠期においては、妊婦を取り巻く周囲の幅広い人々からのサポートとして「情緒的」、「評価的」、「情動的」、「物質的」サポートの4つから構成されていることが分かった。また、育児期においては、研究者間で表現の違いは見られたものの、夫の関わりとは「育児」、「家事」、「妻の精神的援助」の3つの視点から構成されていることが明らかとなった。

また、妻への夫の関わりを測定する尺度は、育児期の妻への夫の関わりについて測定できる尺度はみられるものの、妊娠期に焦点を当てた尺度は少ないことが分かった。それら妊娠期の尺度は、妊婦を取り巻く周囲からのサポートを測定する尺度であり、妻の精神的健康を促す上で重要な役割を担う夫に焦点を当てた尺度ではなかった。

2) 夫婦関係を測定する尺度の検討

夫婦関係に関する尺度は、米国において夫婦関係の研究が盛んに行われており、夫婦関係の質 (marital quality) を測定する方法が採られてきた。Lock ら³³⁾の Short Marital Adjustment test (MAT) は8因子15項目、Spanier³⁴⁾の Dyadic Adjustment Scale (DAS) は4因子32項目から構成され、いずれも夫婦関係における多面性を測定する尺度であった。これまで夫婦関係満足度測定には様々な尺度が用いられているが、米国で開発され用いられている尺度の多くは、行動面における夫婦の伴侶性に焦点が当てられてきた。ところが日本の夫婦は米国に比べ、子どもを預けて夫婦だけで外出するといった夫婦単位の行動が少ないといわれており、行動面よりは心理的な次元に注目する必要があるとされた³⁾。一方、Norton³⁵⁾の Quality Marriage Index (QMI) は、夫婦関係の良さ (Goodness of relationship) に絞った6項目から構成された尺度であり、その後、諸井³⁶⁾により日本語に翻訳された。さらに、橋ら²²⁾の研究により、諸井の夫婦関係満足尺度を用いて夫の育児家事行動と夫婦関係満足度との関連性が検討された。

我が国においては、小野寺¹⁶⁾が、親になることにもなう夫婦関係の変化に焦点をあて検討し、夫婦関係を「親密性」、「頑固」、「我慢」、「冷静」の4因子からなる尺度によって説明した。また袖井³⁷⁾は、Stinnett ら (1970) が中高年夫婦を対象に、精神的側面に焦点を当てて作成した Marital Need Satisfaction Scale を改正し、夫婦関係満足度尺度を作成した。この尺度は、先述した日本の夫婦にふさわしい心理面に焦点を当てた尺度であり、「愛情」、「人格充足」、「尊敬」、「コミュニケーション」、「人生の意味を見つける事」、「過去の人生経験の統合」から構成された。その後、堀口³⁾は袖井の尺度を用いて、親への移行期の夫婦を対象にした夫婦関係満足度を検討した。笠井ら²¹⁾は、夫婦関係を1因子構造の「親近感」と名付け、夫婦関係の下位概念を、「理解」、「信頼」、「尊重」、「愛情」、「一体感」、「コミュニケーション」の6つより構成した。また、佐々木¹⁸⁾は、妊娠期から親としての発達は開始していると考え、妊娠期のペアレンティングの規定因子として夫婦関係を想定し、Belsky¹⁹⁾が示した育児期のペアレンティングの規定因子に関するプロセスモデルを参考に、妊娠期の夫婦関係を評価する6項目からなる「夫婦間コミュニケーション」を作成した。

以上の文献検討の結果から、我が国の親への移行期における夫婦関係を測定する尺度の構成概念は、研究者間で夫婦関係の質の捉え方に多少の違いはあるもの

の、「親密性」や「一体感」、「愛情」、「尊敬」や「尊重」、「コミュニケーション」といった心理的な次元から構成されていることが分かった。

また、夫婦関係を測定する尺度は、親への移行期と一括りに夫婦関係を捉えた尺度がほとんどを占めており、妊娠期に焦点をあてて夫婦関係を測定できる尺度は少ないことが明らかとなった。

IV. 考察

1. 妊娠期における妻への夫の関わりと夫婦関係の定義

1) 妊娠期における妻への夫の関わりと定義

妻への夫の関わりとは、支援、サポート、育児家事行動と研究者によって表現方法に違いがあるものの、親への移行期における夫の関わりと定義を構成する概念は、夫の育児、家事、妻への精神的援助という3つから構成されていることが明らかとなった。これらの構成概念は、主に育児期の夫の関わりに関する研究から導き出されたものである。実際に夫の育児が開始されていない妊娠期は、父親意識や育児への準備を通して夫の育児への意欲を高めていくことが重要であろう。

中島¹³⁾は、夫からの妻の情動への気づかいや家事労働の援助、胎児への関心、夫婦で一緒に出産・育児を話し合うといった関わりにより、妻の精神的健康を促すことを示唆している。また、妊娠期の夫の情緒的サポートは妻の不安の軽減に有効であり³¹⁾、妊婦が期待する夫からのサポートは、初産婦では夫からの身体的、情緒的サポートであると報告されている³⁸⁾。このように妊娠期の夫の情緒的な関わりは妻の不安の軽減に有効であり、夫の関わりは妻の精神的健康に影響を及ぼすと考えられる。

以上から、妊娠期における妻への夫の関わりとは、「これから夫婦で一緒に育児を行っていけると感じることができる夫の行為。妻の情緒的安定を促す精神的援助、家事労働を助ける実際の援助の他、胎児への関心、夫婦の協働による子どもを迎える準備を含む」と新たに定義することが出来る。また、その定義を構成する概念は、妻の情緒的安定を促す「精神的援助」、家事労働を助ける「実際の援助」、夫の「胎児への関心」、「夫婦の協働による子どもを迎える準備」となり、これまでにない構成概念から捉えなおしたと考えられる。

2) 妊娠期における夫婦関係の定義

夫婦関係においては、社会学、心理学分野の研究に比べて看護学分野から夫婦関係の質を検討した研究

は少ないものの、日本人の夫婦関係においては、夫婦の親密性を高め、精神的側面に焦点を当てることの必要性が示されている^{16)・17)}。つまり、夫婦関係において、夫婦が育児の悩み・心配事を共に考えること、必要があれば慰め励まし合うこと、仕事・育児で疲れた心身を思いやり、いたわり合うなど夫婦間の親密な連帯が不可欠である⁵⁾。さらに、妻にとって夫との関係性は、妊娠・出産・育児が自分一人のことではなく、夫婦で乗り越えていく過程であるという認識が強く、このような夫婦関係により妻の精神的健康が促されると推測される。

また、夫婦の親密性が体現されるのはコミュニケーション活動を通じてであり、言動を使って成立するコミュニケーション活動が完結する時、お互いの存在が悦びとなり³⁹⁾、夫婦間の共感的なコミュニケーションが良好な夫婦関係の維持に重要な役割を果たす⁴⁰⁾。妊娠期の夫婦関係においては、夫婦で子どもを迎えるための十分な夫婦間のコミュニケーションをもつことで、出産・育児に向けての準備をすることが理想的な夫婦関係であると考えられる。

以上のことから、妊娠期の夫婦関係とは、「夫婦で子どもを迎えるという共同目標を持ち、夫婦間の共感的なコミュニケーションの基で精神的な安定が図られ、相互の親密性と連帯性を強めていく関係性」と定義することが出来る。また、これらの定義は、夫婦間の共感的な「コミュニケーション」および夫婦の「親密性」、「連帯性」という3つの概念から構成されると考えられる。

2. 妊娠期における妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状と課題

妊娠期における妻への夫の関わりと夫婦関係に関する論文を分析した結果、妊娠期の妻の精神的健康を促す夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状と課題として、以下の点が見出された。

一つは、妻（母親）あるいは夫（父親）のどちらか一方を対象にしていた従来の研究から、夫婦を対象にした、妊娠期の妻の精神的健康を促す夫の関わりおよび夫の親性の発達に影響を及ぼす夫婦関係に関する研究の必要性があげられる。これまでの妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究においては、妻への夫の関わりに影響を及ぼす要因の一つに夫婦関係が関与していることは指摘されていたものの²¹⁾、看護学において夫婦関係に働きかける実証的研究はみられなかった。それは、妊娠・出産・育児の中心が女性（母親）であり、母性看護では女性（母親）が研究の

対象となることが主流であったことが要因と考えられる。近年、もう一人の親である夫にも目を向けて、夫婦を研究の対象とする見方がなされるようになった²⁷⁾が、まだ少ないのが現状である。

二つ目は、妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係との関係性から、妻の精神的健康をアセスメントするためにも妻への夫の関わりと夫婦関係について測定可能な尺度開発の必要性があげられる。これまで妊娠期の夫婦を対象とした夫の関わりと夫婦関係について検討した研究が存在しなかった要因として、妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係についての定義の曖昧さや、妊娠期に焦点を当てて妻への夫の関わりと夫婦関係を測定できる尺度がなかったことが考えられる。

以上より、妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係についての研究の現状と課題として、夫婦を対象にした研究の必要性および妊娠期の夫の関わりによる妻の精神的健康をアセスメントする尺度（妻の精神的健康のアセスメント・ツール）開発の必要性が見出された。

本研究において概観した研究論文は、医学中央雑誌と MedLine の2つであり、英文論文が邦文論文に比べて少なかったことは、文献検索のキーワードの選定が不十分であったことが要因と考えられ、この点は研究の限界といえる。

しかし、本研究により、妊娠期における夫の関わりと夫婦関係について新たに定義され、研究の現状と課題について明らかとなったことから、今後は共通の概念、研究課題の認識のもと妊娠期の妻の精神的健康を高めるための看護学分野における研究が発展していくことが期待できる。また、本研究により妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究は少ないことが明らかとなり、今後さらなる探索が必要であるといえよう。

(本研究は、平成19-20年度科学研究費補助金の助成を受けて行った研究の一部である。)

文献

- 1) 平山順子. 子育て臨床の理論と実際—夫婦関係の研究が示す「新しい子育て」への提言. 家族心理学年報20. 金子書房. 東京. 2002
- 2) 大日向雅美. 子育てと出会うとき. NHKブックス. 日本放送出版協会. 東京. 1999
- 3) 堀口美智子. 「親への移行期」における夫婦関係. 生活社会学研究. 1999; 7(81):81-95
- 4) Jay Belsky, John Kelly. 安次嶺佳子訳. 子どもを持つと夫婦に何が起こるか. 草思社. 東京. 1995
- 5) 岡堂哲雄. 家族心理学講座. 金子書房. 東京. 1991
- 6) 伊藤祐子, 池田政子, 河浦康至. 既婚者の疎外感に及ぼす夫婦関係と社会的活動の影響. 心理学研究. 1999;70:17-23
- 7) 大月恵理子, 森 恵美, 中村康香, 他. 日本における妊娠期の母親役割獲得を促す家族看護の構成概念. 千葉看護会誌. 2006;12(1):50-57
- 8) 岩田裕子, 森 恵美. 父親役割への適応を促す看護援助に関する文献研究. 千葉看護会誌. 2004; 10(1):49-55
- 9) 渡邊典子, 川崎佳代子. 妊婦が感じている不安・問題の内容と対処法. 母性衛生. 1997; 38(2):182-192
- 10) 笠井真紀, 河原加代子, 杉本正子. 夫の育児サポートと夫婦関係に関する予備的調査. 日本保健学会誌. 2006; 9(2):102-111
- 11) 中山美由紀, 三枝 愛. 1歳6ヶ月児を持つ母親に対する父親の育児支援行動. 母性衛生. 2004; 44(4):512-520
- 12) 藤原千恵子, 日隈ふみ子, 石井京子. 三か月児をもつ父親の育児家事行動と母親の父親に対する期待との関連. 1997; 51(6):85-90
- 13) 中島久美子. 妊婦が満足と感じた夫の言動や態度—妊娠各期の特徴—. 日本母性看護学会誌. 2006; 6(1):15-21
- 14) 神原文子. 夫婦関係満足度をめぐる諸要因に関するレビュー. 愛知県立大学文学部論集. 1991:1-25
- 15) 澤田忠幸. 妊娠を契機とした男女の人格発達—夫婦関係, 性役割, 子どもイメージとの関連. 家族心理学研究. 2005; 19(2):105-115
- 16) 小野寺敦子. 親になることにとまなう夫婦関係の変化. 発達心理学研究. 2005; 16(1):15-25
- 17) 堀口美智子. 第1子誕生前後における夫婦関係満足度. 日本家政学会家族関係学部会「家族関係学」. 2002; 21:139-151
- 18) 佐々木くみ子. 親となる意識の構造とその影響要因に関する調査研究. 米子医学雑誌. 2004; 55(2):142-150
- 19) Jay Belsky. The Determinants of Parenting: A process. 1984; 55:83-96
- 20) 石曉玲, 桂田恵美子. 夫婦間コミュニケーションの視点からの育児不安の検討—乳幼児をもつ母親を対象とした実証的研究—. 母性衛生. 2006; 47(1):222-229
- 21) 笠井真紀, 河原加代子. 育児期間中の母親への夫の育児サポートと夫婦関係との関連. 日本地域看護学会誌. 2007; 9(2):75-80
- 22) 橘 千恵, 中村絵里子, 中島夕美, 他. 夫の育児家事行動の特徴と子どもへの愛着, 夫婦関係満足度との関連. 母性衛生. 2008; 49(1):65-73
- 23) 日隈ふみ子, 藤原千恵子, 石井京子. 親としての発達に関する研究: 一歳半児を持つ父親の育児家事行動の観点から. 日本助産学会誌. 1999; 12(2):56-63
- 24) 牧野カツ子. 育児不安の概念とその影響要因についての再検討. 家庭教育研究所紀要. 1989; 10:23-31
- 25) 小野寺敦子, 青木紀久代, 小山真弓. 父親になる意識の形成過程. 発達心理学研究. 1998; 9(2):121-130
- 26) 小杉紗有香, 湯本敦子, 坂口けさみ, 他. 妊娠期における親意識と夫婦関係の変化に関する研究. 日本看護学会論文集: 母性看護2007;37:119-121

- 27) 佐々木くみ子. 親となることによる人格的発達に関する研究—第1子妊娠期の父母について. 母性衛生. 2005; 46(1):62-68
- 28) 古田祐子, 生塩麻衣, 池尻真紀, 他. 妊娠期の妻の働きかけによる夫の親性発達. 母性衛生. 1999; 4 (4):482-490
- 29) 神崎光子. 妊娠後期における夫の親役割への適応に関する研究. 母性衛生. 2005; 45(4):540-550
- 30) 佐々木くみ子. 親の人格的発達に影響を及ぼす諸要因—妊娠期から乳児期にかけて. 母性衛生. 2006; 46(4):580-587
- 31) 岩田銀子, 伊藤久美子, 柳原真知子, 他. 妊婦の情動に対するソーシャル・サポート効果の検討. 看護総合科学研究会誌. 2001; 4(2):15-27
- 32) 喜多淳子. 妊婦が認知するソーシャル・サポートとソーシャル・ネットワークの質についての検討. 日本看護科学会誌. 1997; 17(1):8-21
- 33) Look,H.J.Wallace,K.M. Short Marital Adjustment and Prediction Tests: their reliability and validity. Marriage and Family Living. 1959; 21:251-255
- 34) Spanier,G.B. Measuring dyadic adjustment: New scales for assessing the quality of marriage and similar dyads. Journal of Marriage and the Family. 1976; 38:15-28
- 35) Norton,R. Measuring marital quality: A critical look at the dependent variable. Journal of Marriage and the Family. 1983; 45:141-151
- 36) 諸井克英. 心理測定尺度集Ⅱ. 吉田富二緒編. 夫婦関係満足度尺度. サイエンス社. 2001:149-152
- 37) 袖井孝子, 都築佳代. 定年退職後夫婦の結婚満足度. 社会老年学. 1985; 22:63-77
- 38) 脇田満里子, 小島康夫, 入澤みち子. 妊娠・出産が母親の心理に及ぼす影響—夫からのサポートに着目して. 母性衛生. 2003; 44(2):244-249
- 39) 佐藤悦子. 夫婦間コミュニケーション. 家族心理学年報15. 日本家族心理学会編. 金子書房. 東京. 1997; 121-131
- 40) 平山順子, 秋山泰子. 夫婦の職業生活とコミュニケーション. 家族心理学年報22. 日本家族心理学会編. 金子書房. 東京. 2004; 53-66

A review of the literature on the marital relationship and supports to a pregnant wife by her husband

Kumiko NAKAJIMA, and Yoko TOKIWA

Abstract : Purpose

In this review we define concept of marital relationship and supports to a pregnant wife by her husband, and close up problems of current studies on the marital relationship and the husband's support which promote mental health the pregnant wife.

Methods

The literature search was conducted with keywords of "pregnancy", "transition to parenthood", "couple", "marital relationship" and "support" in MedLine and peer-reviewed medical journals. The articles searched were published between 1988 and 2008.

Results

97 articles were hit and 22 of which were selected since they had description of supports by a husband and marital relationship, and were well organized scientific papers. A concept of the marital relationship and the supports by the husband was defined and we found problems of current studies on the marital relationship and the husband's support.

Conclusion

We have defined concept of marital relationship and supports to a pregnant wife by her husband. The following two challenges were identified in the researches on supports to a pregnant wife by her husband.

1. Necessity of studies on the supports to the pregnant wife by her husband and marital relationship which promote parenthood of the husband.
2. Necessity of a measurable scale for the supports by the husband and marital relationship in order to assess mental health of the wife.

Key words : Pregnancy, husband's support, marital relationship, review